

株式会社フィックスターズ

2020年9月期 第2四半期決算補足説明資料

2020/5/14

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

1

2020年9月期 第2四半期 決算説明

・売上高、利益ともに期初予算を上回る

- ・売上高： 2,946百万円（前年同期比 ▲18.7%、予算比 +6.8%）
- ・営業利益： 651百万円（前年同期比 ▲3.7%、予算比 +58.8%）

・ソフトウェア・サービス事業が引き続き伸長

- ・自動運转向けソフトウェア開発・高速化サービスを中心に案件規模拡大

・ハードウェア基盤事業も期初予算通り順調に推移

- ・画像処理向けストレージ・サーバの大型スポット案件が減収となるも、医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが堅調に推移

連結損益計算書

ハードウェア基盤事業のスポット案件の減収と新規事業向け経費増により減収減益となるも、売上高、利益ともに期初予算を上回って着地。

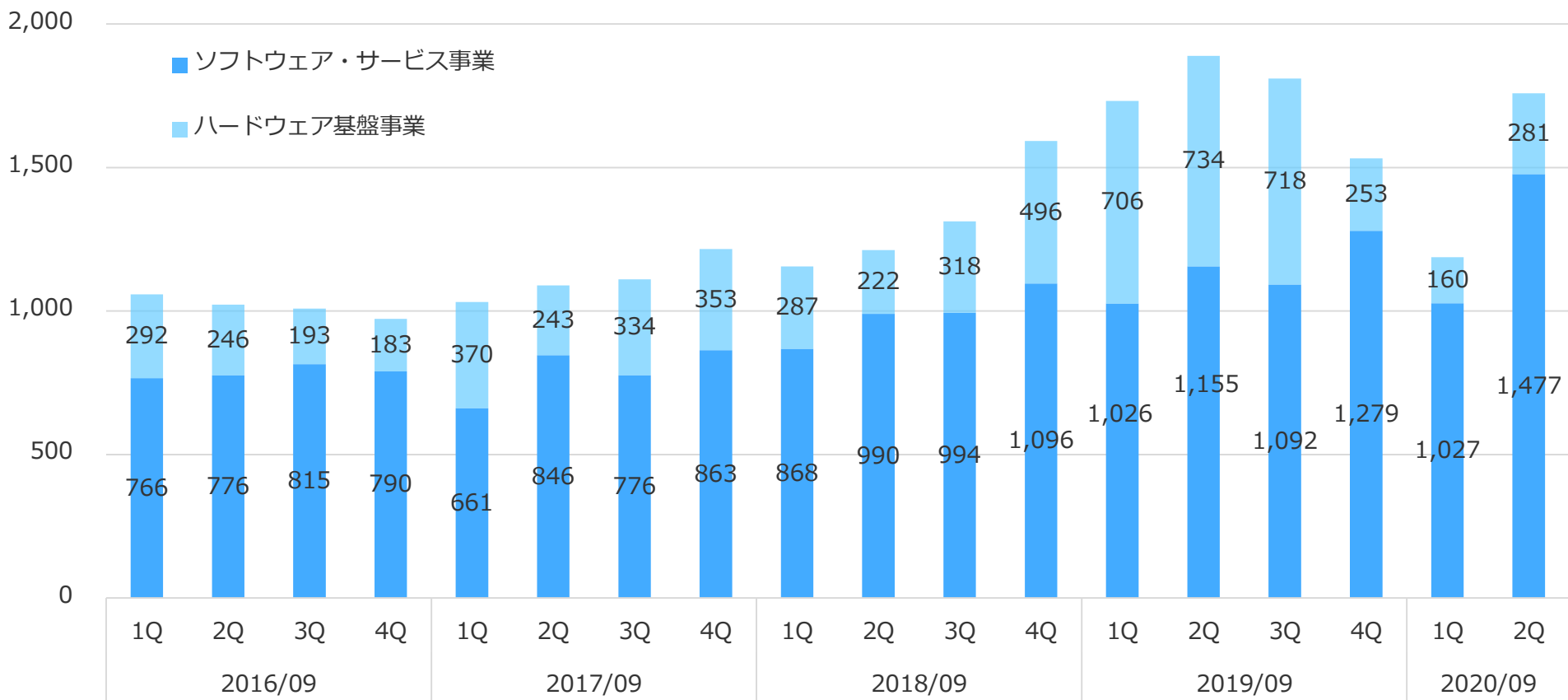
(単位：百万円)	2019年9月 期2Q累計	2020年9月 期2Q累計	2020年9月期2Q累計		
	実績	期初予算	実績	前年同期比	期初予算比
売上高	3,622	2,759	2,946	▲18.7%	+6.8%
営業利益	676	410	651	▲3.7%	+58.8%
売上高営業利益率	18.7%	14.9%	22.1%	+3.4pt	+7.2pt
親会社株主に帰属 する当期純利益	452	219	399	▲11.7%	+82.2%
売上高当期純利益率	12.5%	8.0%	13.6%	+1.1pt	+5.6pt

売上高

ソフトウェア・サービス事業は自動運转向けソフトウェア開発・高速化サービスが伸長し増収を達成。

ハードウェア基盤事業は前年同期比で大幅減収。

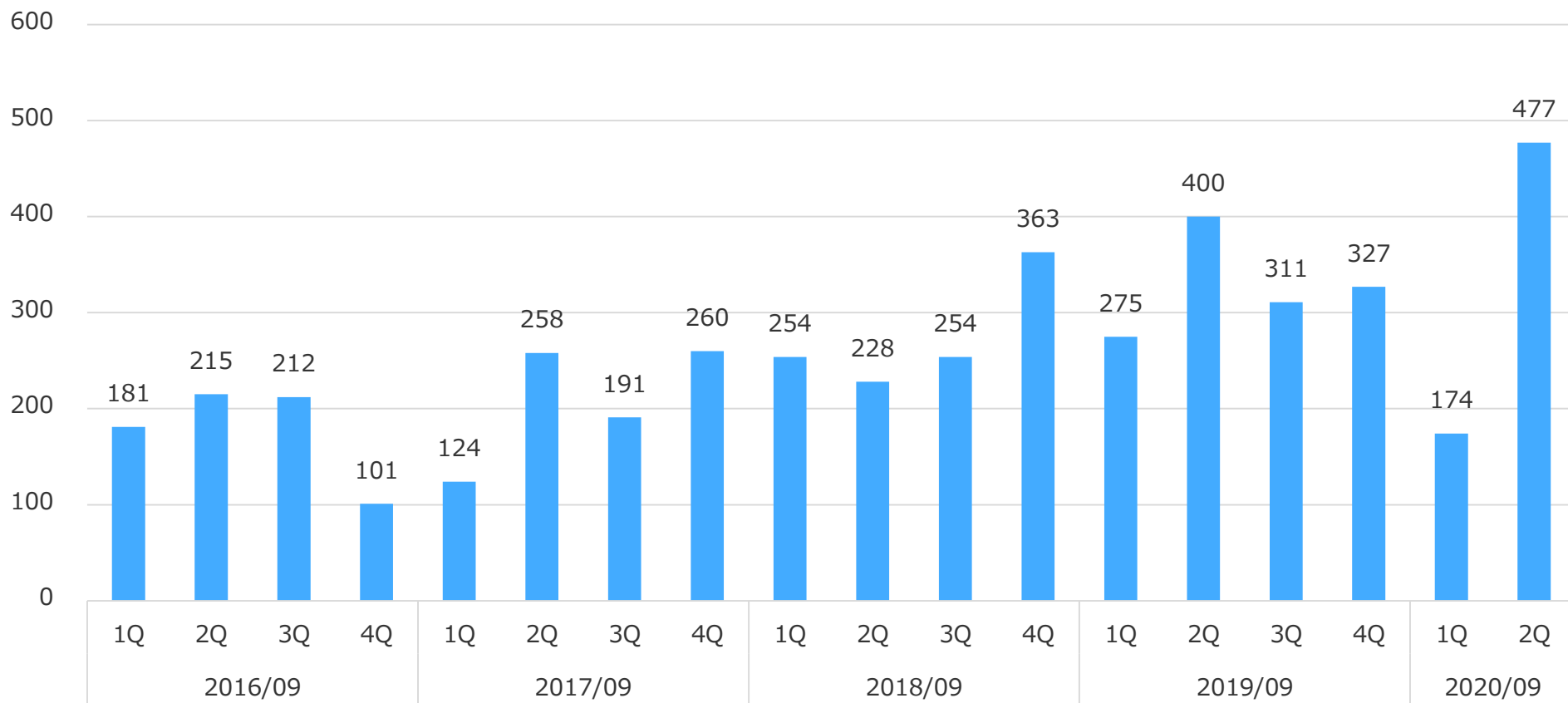
(単位：百万円)



営業利益

ソフトウェア・サービス事業の増収により、過去最高の四半期営業利益を達成。

(単位：百万円)

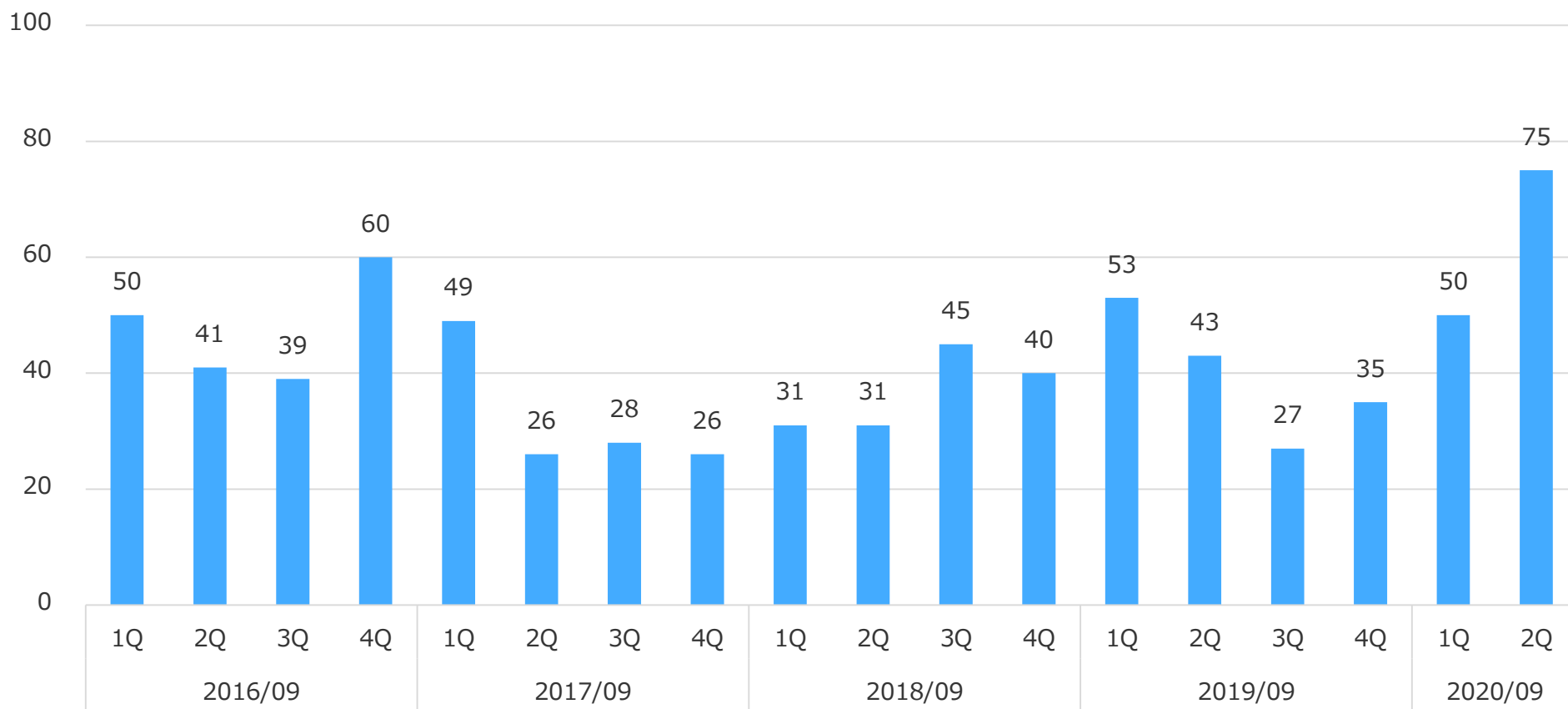


研究開発費

Sleekを中心とした新規SaaS事業向けの研究開発を継続。

NEDO等からの補助金計上のタイミングにより四半期毎のブレがでるも、期初予算内で推移。

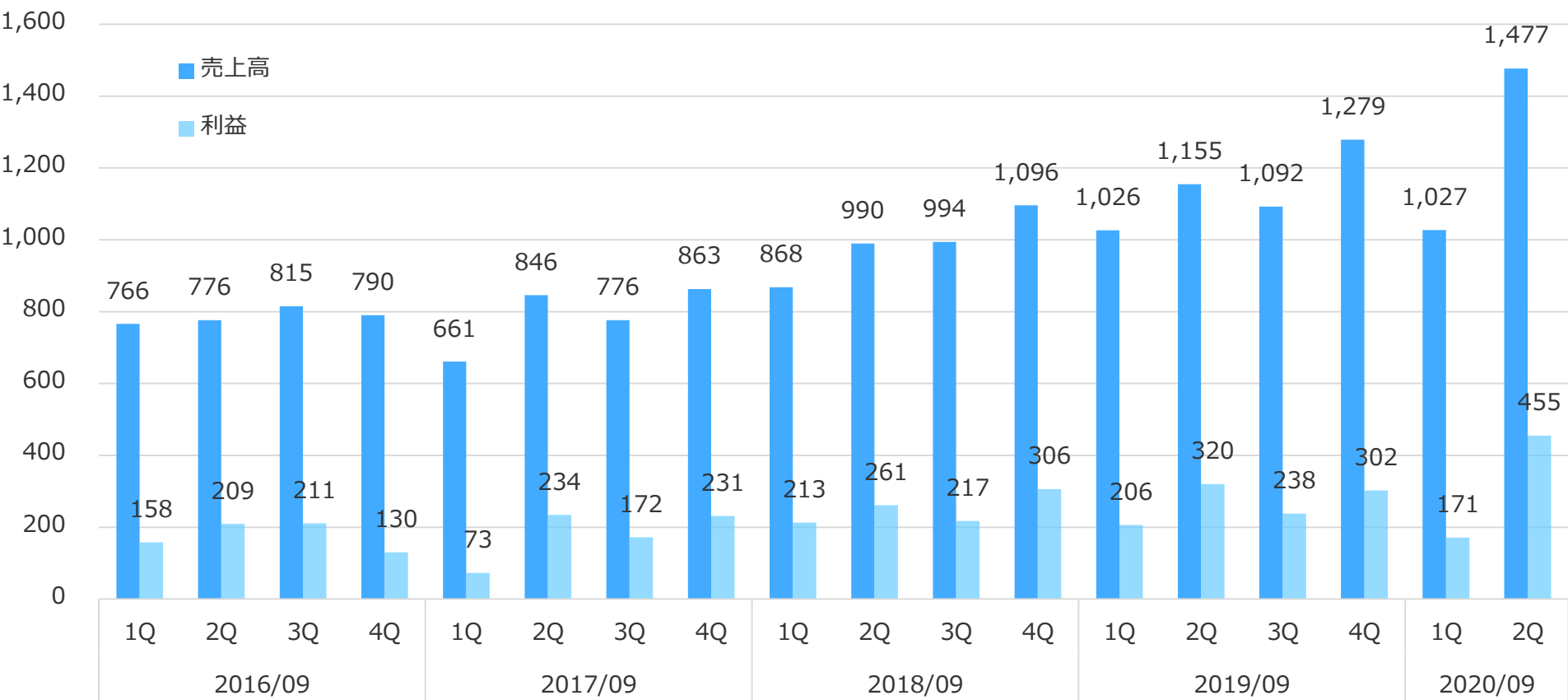
(単位：百万円)



ソフトウェア・サービス事業

自動運転向けソフトウェア開発・高速化サービスを中心に案件規模が拡大し、増収増益を達成。

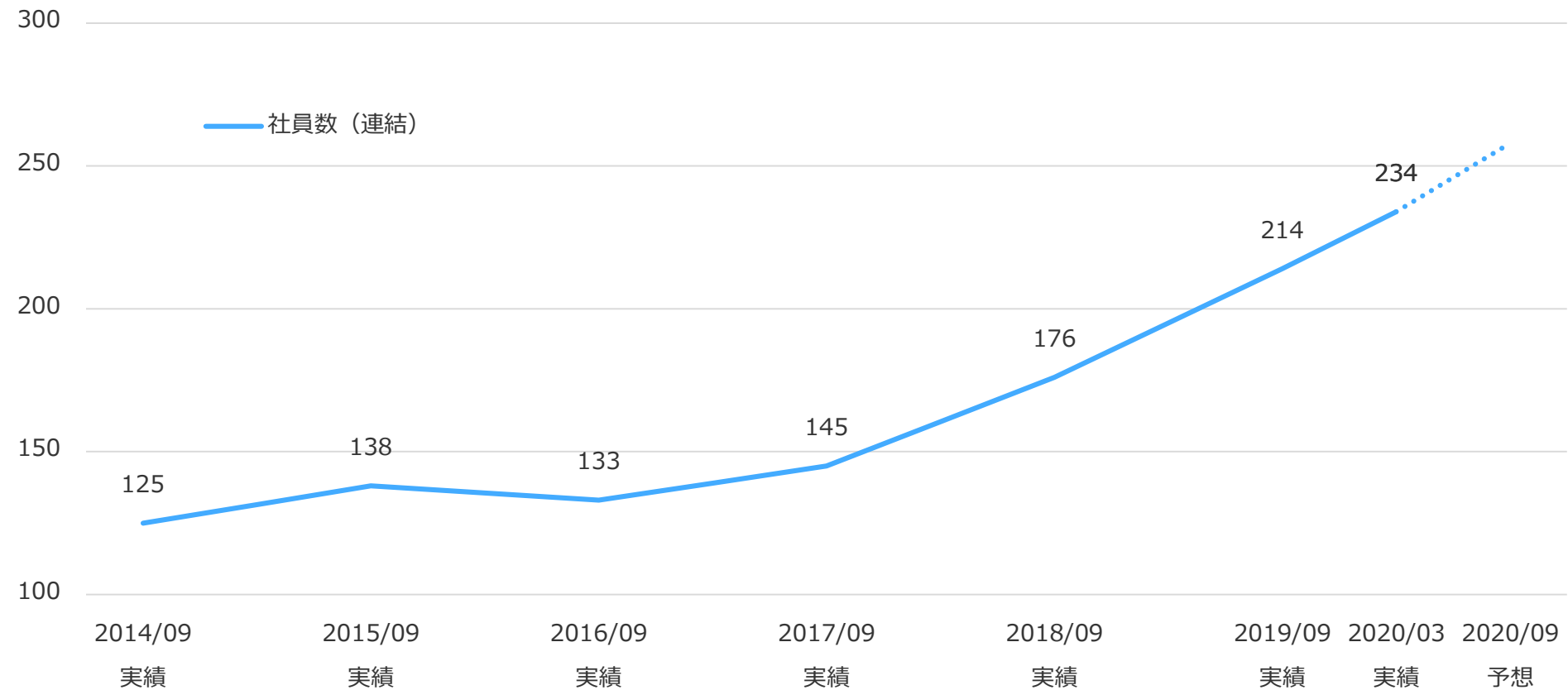
(単位：百万円)



社員数推移

前期末よりも20名増員して上期は着地。
新卒を中心に下期も大幅に増員予定。

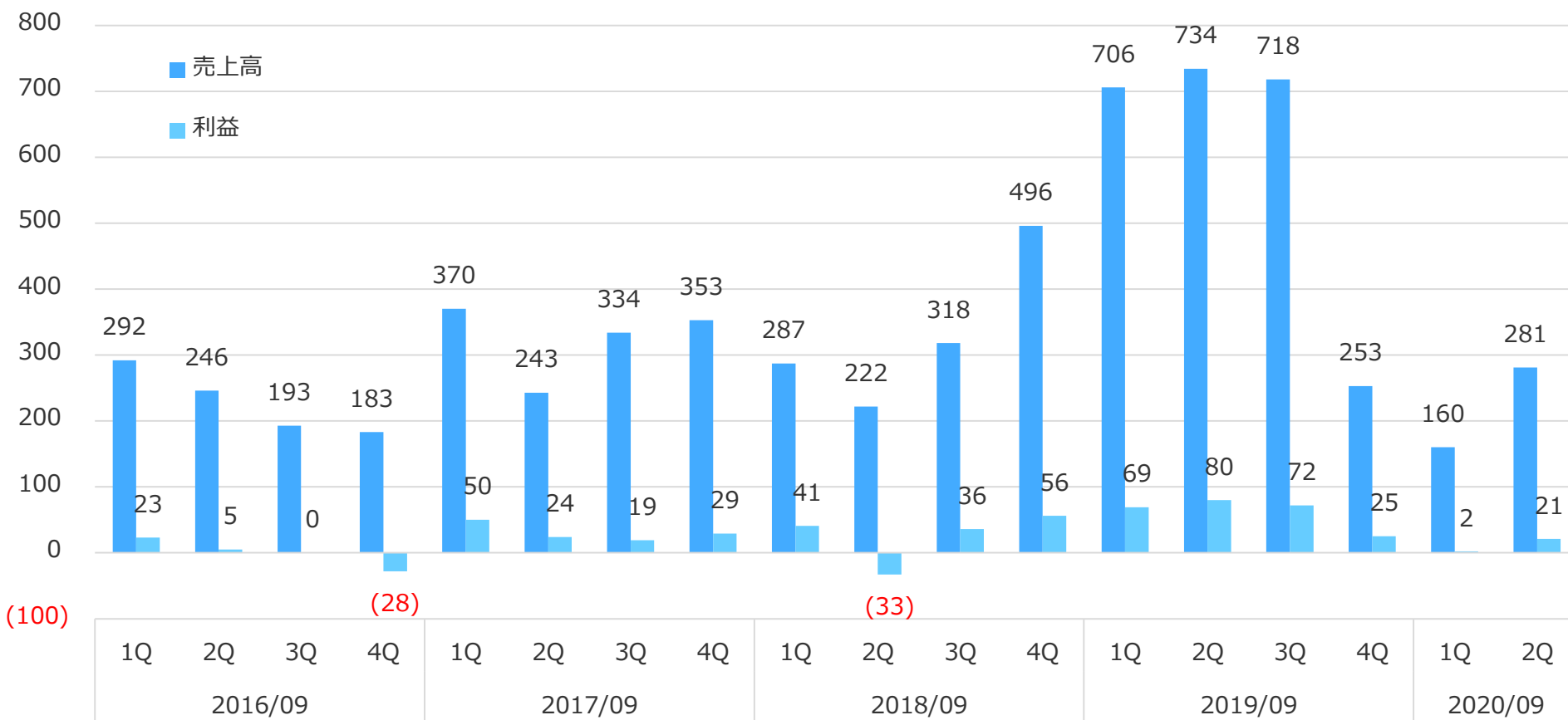
(単位：人)



ハードウェア基盤事業

画像処理向けストレージ・サーバの大型スポット案件が減収となるも、
医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードが堅調に推移し、期初予算通り着地。

(単位：百万円)

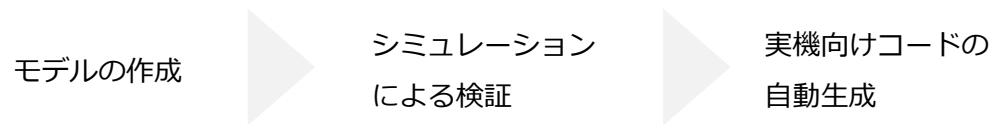


オスカーテクノロジー株式会社の株式取得、子会社化

自動並列化技術に強みを持つ早稲田大学発ベンチャー、オスカーテクノロジー株式会社の株式を取得、子会社化。
MBD向け自動並列化サービス“OSCARator”の事業化に取り組む。

MBD(Model Based Development)とは

“動く仕様書”となるモデルを作成し、そのモデルを用いたコンピュータシミュレーションで製品の設計や性能を検証、その後の量産までつなげる手法



顧客の課題

シミュレーションに膨大な時間がかかり開発が滞る

出力されたコードでは実機で十分な性能が出ない



**自動並列化サービス“OSCARator”が、
コードを自動で高速化**

利用分野



モビリティ



ロボット・ドローン



産業機器



医療機器

新型コロナウイルス感染症の影響について

上期実績への影響はなし。

顧客の製品開発動向等を踏まえ、今後の見通しへの影響を精査中。

上期実績への影響

全体

上期実績への影響はなし

ソフトウェア・サービス事業

期初予定通りプロジェクト規模が拡大し、増収増益

ハードウェア基盤事業

顧客側の生産計画も予定通り推移し、期初予定通りに着地

当社の取り組み

社員の安全を確保

原則リモートワークとし、感染者との接触リスクを軽減

財務基盤の強化

総額40億円の借入を実施し、コロナ禍の長期化に備え財務基盤を一層強化

新規事業の加速

withコロナの開発体制向けにAIプロジェクトマネージャ“Sleek”等を積極提案

今後の見通しへの影響

全体

業績への影響を精査中

ソフトウェア・サービス事業

顧客の製品開発動向をフォローし、ソフトウェア開発・高速化サービスへのインパクトを精査

ハードウェア基盤事業

顧客最終製品の上市タイミングと量産スケジュールを精査

2

2020年9月期 通期業績予想

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を精査中であり、期初予想のまま据え置き

- ・売上高： 6,384百万円（前期比 ▲8.4%）
- ・営業利益： 1,059百万円（前期比 ▲19.5%）
- ・新規SaaS事業向け研究開発費等の先行投資約4.5億円（前期実績：約2.5億円）
を確保

ソフトウェア・サービス事業がプロジェクト規模拡大により安定成長

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発、及び自動運転関連のソフトウェア開発・高速化サービスを中心に安定成長

ハードウェア基盤事業はスポット案件減により大幅減収見込み

- ・ スポット案件関連（前期売上実績：約10億円）が減収見込み
- ・ 医療機器向け画像処理プロセッサ搭載演算ボードのEOLが2021年3月に確定。
リカーリング収益が期待できる新たな案件獲得を目指す

連結損益計算書

ソフトウェア開発・高速化サービスの拡大が見込まれるも、ハードウェアの大型スポット案件減により減収予想。

新規SaaS事業向け約4.5億円（前期実績：約2.5億円）を中心に販管費増が見込まれ減益予想。

費用が先行する新規事業を新会社に分離したことで、連結決算上は税負担率が増加し当期純利益率が低下。

(単位：百万円)	2019年9月期	2020年9月期	
	実績	予想	前期比
売上高	6,966	6,384	▲8.4%
営業利益	1,316	1,059	▲19.5%
売上高営業利益率	18.9%	16.6%	▲2.3pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	870	579	▲33.5%
売上高当期純利益率	12.5%	9.1%	▲3.4pt



補足資料

高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、コンピュータの性能を最大限に引き出し大量データの高速処理を実現する、高速化のエキスパート集団です。

概要

会社名	株式会社フィックスターズ
本社所在地	東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー18階
設立	2002年8月
上場区分	東証一部（証券コード：3687）
代表取締役社長	三木 聡
資本金	5億5,296万円（2020年3月現在）
社員数（連結）	234名（2020年3月現在）
主なお客様	キオクシア株式会社 株式会社ネクスティ エレクトロニクス 株式会社日立製作所 キヤノン株式会社

グループ体制

株式会社フィックスターズ

株式会社Fixstars Autonomous Technologies

- 株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV（当社持分：66.6%）
- 自動運転向けソフトウェア開発に特化

Fixstars Solutions, Inc.

- 当社完全子会社
- 米国での営業及び開発を担当

株式会社スリーク

- 当社完全子会社
- 新規SaaS事業“Sleek”を担当

株式会社Smart Opinion

- プロディジメディカル株式会社とのJV（当社持分：65.0%）
- 乳がんAI画像診断支援事業を担当

オスカーテクノロジー株式会社

- 連結子会社（当社持分：52.8%）
- MBD向け自動並列化サービス“OSCARator”を担当

コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

年月	出来事
2002年 8月	神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更
2004年 7月	マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始
2006年 12月	PlayStation®3の発売を受け、「PS3® Information Site」を立ち上げ
2009年 12月	「OpenCL入門ーマルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版
2010年 11月	米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入
2012年 1月	NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始
2014年 4月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2016年 11月	東京証券取引所市場第一部に市場変更
2017年 6月	量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始
2018年 2月	自動運転分野のさらなる拡大を目指し、(株)ネクスティ エレクトロニクスと合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立
2020年 3月	自動並列化技術に強みを持ち、MBD向け自動並列化サービス“OSCARator”を展開するオスカーテクノロジー株式会社の株式を取得、連結子会社化

コンピュータの恩恵を人々に

コンピュータの性能を最大限に引き出す高速化技術を軸に、ESGをはじめとする人類社会の課題解決に貢献しています。

当社事業領域



組込みシステム等の高速化
フラッシュストレージの高性能化、応用分野の拡大



自動運転の高性能化、実用化
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援



医用画像処理、ゲノム解析の高速化
AIによる画像診断支援



AIを用いたソフトウェア開発マネジメントサービス
AIチップ、量子コンピュータ向け開発基盤の提供

社会的価値

コスト・消費電力削減による
環境負荷低減

交通事故の根絶
交通弱者の救済

より気軽でより質の高い
診断・治療へのアクセス

更なる技術革新への
土台作り

ソフトウェア開発・高速化サービス

お客様のソースコードをご提供いただき、
ソフトウェアの最適化やアルゴリズムの改良を行い高速化したコードをお返しします。



当社

オリジナルソースコードのご提供

高速化したソースコード

お客様



コンサルティング



高速化



サポート

- 性能評価
- ボトルネックの特定
- アルゴリズムの改良・開発
- ハードウェアへの最適化
- レポート作成
- レポートやコードへのQ&A
- 実製品への組込み支援

大量データの高速処理が求められる分野

大量データの高速処理が顧客製品の競争力の源泉となる、
様々な領域でソフトウェア開発・高速化サービスを提供しています。

**Semiconductor**

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・ 次世代AIチップ向け開発環境基盤開発

**Industrial**

- ・ Smart Factory化支援
- ・ マシンビジョンシステムの高速化

**Mobility**

- ・ 自動運転の高性能化、実用化
- ・ 次世代パーソナルモビリティの研究開発

**Life Science**

- ・ ゲノム解析の高速化
- ・ 医用画像処理の高速化
- ・ AI画像診断システムの研究開発

**Finance**

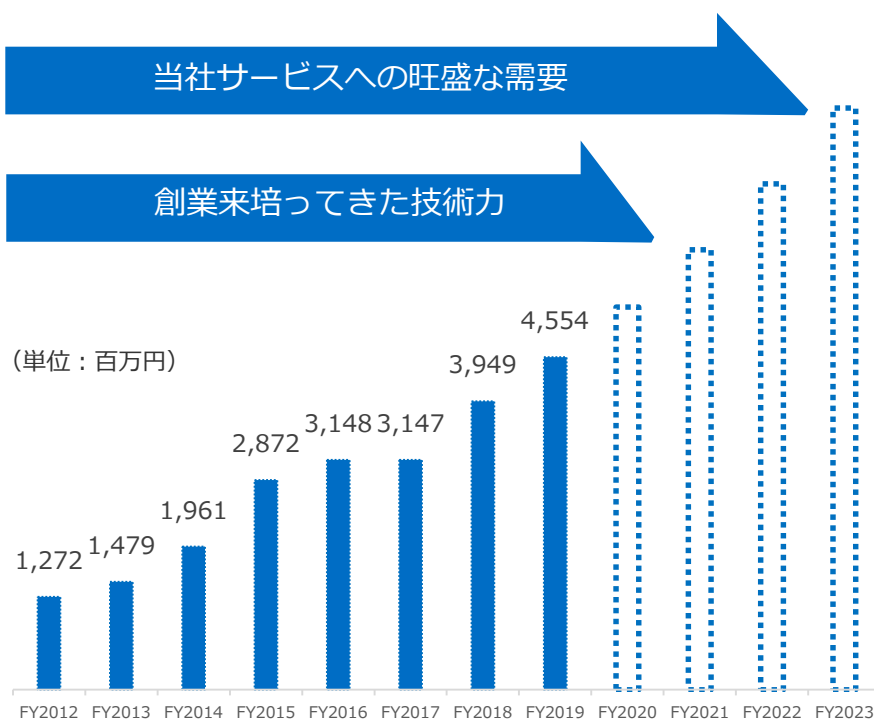
- ・ デリバティブシステムの高速化
- ・ HFT(アルゴリズムトレード)の高速化

既存事業の安定成長と新規SaaS事業の育成

当社サービスへの旺盛な需要を背景に、ソフトウェア開発・高速化サービスの安定成長が見込まれます。

当社事業の根幹をなすソフトウェア開発・高速化サービスに引き続き注力する一方で、更なる成長のため新規SaaS事業の育成に取り組みます。

ソフトウェア・サービス事業の売上高推移



現状と今後の課題

年率10%~15%の安定成長

旺盛な需要を背景にソフトウェア・サービス事業の年率10%~15%の安定成長が見込まれる一方、それ以上のペースでの拡大成長は見込み難い

更なる成長の実現

創業来培ってきた技術力と外部環境を活かして、世界シェア1位の“勝者”となりうる新規事業開発にチャレンジ

AIプロジェクトマネージャ“Sleek”

AIがまるで優秀なサブマネージャのように、
生産性向上に必要な情報の取得・整理、解決策の提案・実施を行います。

ソフトウェア開発における課題



コミュニケーション不足により、開発進捗やチームの状況を把握しきれない



コード品質の向上や技術的負債の解消まで手が回らない



管理業務やレポートングに時間がとられ過ぎる

Sleekの提供する機能

プロジェクト管理に必要な情報の自動取得、整理、解釈、そして解決策の提案

- 連携する各ツールからデータを取得し機械学習を用いて状態を定量評価
- botがメンバに声がけして、必要な情報の取得・提供、解決策の提案を実施

コードレビューの自動実施や技術的負債の自動把握

- プルリクエストに対して自動の静的解析
- 機械学習によるコード品質の定量的な評価
- 開発履歴等をベースとしたAIによるコードレビュー

見える化によりレポートングやタスク優先度付けを簡単に

- 連携する各ツールからデータを取得し、プロジェクトの状況をパネルに見える化

乳がんAI画像診断支援事業

乳がんを対象としたAIによる自動診断支援技術を今後事業化。

超音波画像に対しAIを用いて高速かつ高精度に腫瘍を認識することで、患者、医師、検査技師の負担軽減を目指します。

事業体制

フィックスターズ

ディープラーニング
技術

慶應大学医学部等

大量の診断データ

- 日本初となる、超音波画像を学習データとする乳がんのAI診断支援システムを慶應大学医学部と共同研究
- 慶應大学医学部等の協力を得て、大量の診断データを元に学習し、高いレベルの診断精度を実現

提供形態

静止画解析

リアルタイム
動画解析

提供価値

患者の検査負担軽減
見落とし防止、早期発見

医師の負担軽減

検査技師の不足解消
読影技術のサポート

▶ 超音波画像を用いたAI自動診断支援により患者、医師、検査技師の負担を軽減

エッジビジョンAI開発プラットフォーム“GENESIS”

自動運転やFA等、様々な分野で利用拡大が見込まれるエッジビジョンAI向けの開発プラットフォームです。
アルゴリズムの構築から各種ハードウェア向け最適化、半導体回路生成まで数クリックでシームレスに行えます。

事業背景と顧客の課題

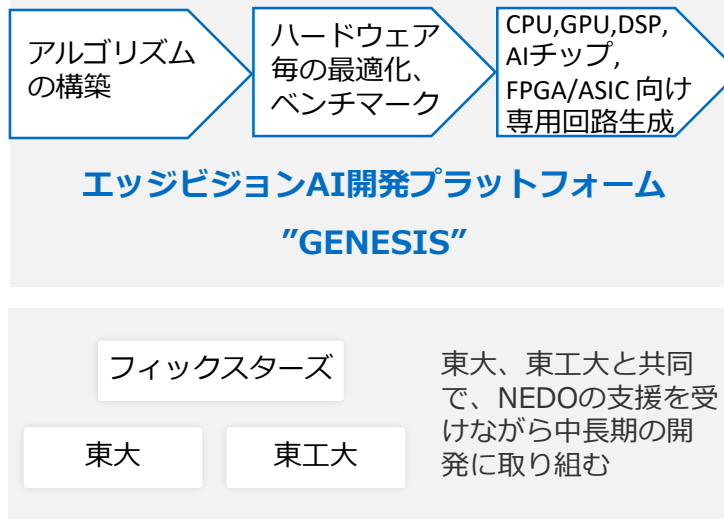
手戻りによる開発工数の増大と、ソフトウェア開発の高難度化

製品の競争力を高めるため、最新アルゴリズムとハードウェアを活用して高度なエッジビジョンAIを実現したいが・・・

- 新たなアルゴリズムやハードウェアを試す度にソフトウェアを実装しなければならない
- 量産用の安価なハードウェアに乗り換えるために再度ソフトウェアを実装し直さなければならない
- システム全体を最適化するためには多くの時間と高度なノウハウが必要

提供機能

アルゴリズムの構築から最適化、半導体回路生成まで数クリックで完成



適用分野

エッジビジョンAI



ADAS・自動運転



ドローン



FA

⋮

量子コンピュータ事業

各種量子コンピュータを容易に、効果的に活用できるような共通ミドルウェア群と、関連コンサルティングサービスを提供します。NEDO及びSIPに参画し、中長期の研究開発に取り組みます。

共通ミドルウェア群のイメージ



当社の差別化要因

- アクセラレータ活用技術
創業来ソフトウェア開発・高速化サービスで培ってきたGPUやFPGAといったアクセラレータの活用技術
- 量子力学をはじめとする各研究分野の知見
次世代アクセラレータ活用に必要な学術的バックグラウンドに加え、活用先の候補となる各研究分野における知見
- 産官学キープレイヤーとの強い関係性
国内外のデバイスメーカーから著名大学や行政機関まで、量子コンピュータにおけるキープレイヤーとの強い関係を構築

NEDO:産業技術力の強化等を目的とした経産省所管の国立研究開発法人
SIP: 戦略的イノベーション創造プログラム。内閣府主導の府省・分野を超えた横断型プログラム

